

Lead the Digital Transformation →

# 2018年3月期 第2四半期 証券アナリスト向け決算説明会

2017年11月22日

株式会社 **クレスコ**

- ① 第2四半期のトピックス
- ② 第2四半期決算のポイント
- ③ 今後の見通し
- 参考 決算説明の補足、今期の取組み、会社概要
- 別冊 決算補足データ



# ① 第2四半期のトピックス

平成29年9月11日

各位



会社名	株式会社 クレスコ
代表者名	代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸 (コード番号：4674 東証第1部)
問合せ先	広報IR推進室 室長 米崎 道明 (TEL 03-5769-8058)

## 画像を活用するチャットボット『Minervae ViBOT』販売開始のお知らせ

～AIの活用ノウハウを提供するサービスブランド『Minervae (ミネルヴァ)』～  
IBM Watson 日本語版を用いた顧客サポート業務向けのチャットボットに画像を活用

株式会社クレスコ（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：根元 浩幸、以下、当社）は、コグニティブ・コンピューティング・システムの IBM Watson（以下、Watson）を活用した画像（写真）認識が可能なチャットボット「Minervae ViBOT（ミネルヴァ ヴィボット）」の販売を開始いたしましたのでお知らせいたします。

「Minervae ViBOT」は、対話や画像を識別することのできる Watson を活用したチャットボットをウェブサイトやアプリケーションに組み込むことで、応答の精度とスピードを向上するソリューションです。このソリューションは、NLP（Natural Language Classifier/自然言語認識）、VR（Visual Recognition）など、AIの技術を活用し、ユーザーは伝わりにくい情報を正しく、素早く伝えることができます。

また、「Minervae ViBOT」は、学習データの蓄積が可能であり、チャット画面も標準の Web インターアクションツールを採用することができるため、応答だけでなく、オペレーターによる手動応答への対応を実現いたします。

当社は、平成27年7月、Watson エコシステ

### 【概要】

■ 「Minervae ViBOT」は、  
IBM Watson™ を活用した  
画像認識できるチャットボット

- 入力した文字の識別の他に、送信した画像を識別して自動応答
- 言葉だけでは伝わりにくい情報でも、画像を使用して、解り易く&正しく&素早くやり取り
- 自動応答と手動応答の切替可
- 不動産総合マネジメント業の「(株)ザイマックス」様向けに開発したシステムを基に、サービス化
- 初期費用100万円、本場運用費用50万円～



平成29年9月25日

各位



会社名 株式会社 クレスコ  
代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸  
(コード番号：4674 東証第1部)  
問合せ先 広報IR推進室 室長 米崎 道明  
(TEL 03-5769-8058)

## 当社子会社による株式の取得（孫会社化）に関するお知らせ

当社は、平成29年9月25日開催の取締役会において、当社連結子会社の株式会社アイオス（代表取締役：宮本大地、本社：東京都港区、以下、アイオス）が、株式会社アプリケーションズ（代表取締役：長島 豊、本社：神奈川県横浜市、以下、同社）の全発行済株式を取得し、子会社化（当社の孫会社化）することについて、決議をいたしましたので下記のとおりお知らせいたします。

### 1. 株式取得の理由

当社企業グループは、複合IT企業として、株式会社クレスコを親会社とし、現在、子会社10社（海外子会社1社含む）、持分法適用会社4社の体制となっております。各社の有機的な連携により、企業全体のIT戦略立案から開発、運用・保

同社は、昭和53年に設立以来、企業小売業、運輸・倉庫業、サービス開発を軸に、近年は、iPhone、iPad向けに、Webデザイン

今回の株式取得は、アイオスの喫緊の補強に大きく寄与するとともに、クレスコグループの企業価値

### 【概要】

- 子会社「アイオス」が、2017年10月2日付で受託開発、スマートフォン向けアプリケーション開発、Webデザイン・制作、パッケージソフト開発・販売を行う「(株)アプリケーションズ」を子会社化
- 受注力向上、技術力の底上げ、人材の補強、事業領域の拡大が目的
- 静岡市に支店があり、クレスコグループの営業拠点の拡大にも繋がる

平成29年9月25日

各位

会社名 株式会社クレスコ  
代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸  
(コード番号：4674東証一部)  
問合せ先 取締役 常務執行役員 菅原 千尋  
グループ事業推進本部長  
(TEL 03-5769-8011)



## 海外子会社の清算結了に関するお知らせ

当社は、平成28年8月29日公表の「海外連結子会社の解散および清算に関するお知らせ」に記載のとおり、当社の子会社である科礼斯軟件（上海）有限公司（クレスコ上海）の清算手続きを進めておりましたが、このたび同社の清算結了が確認できましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 清算結了日 平成29年9

2. 清算子会社の概要

- (1) 名称：科礼斯軟件
- (2) 所在地：中華人民共
- (3) 代表者：董事長 高

### 【概要】

- 子会社「科礼斯軟件(上海)有限公司」の清算が、2017年9月25日に結了
- 2012年6月に、中国上海市に、中国進出の日本企業に対するソフトウェア開発を主軸とした支援および、アジア地区における当社の商圈拡大を図るために設立
- 中国市場の縮小や日本企業の中国撤退等により、業績低迷が続き、今後も当該事業の業績回復は見込めないため

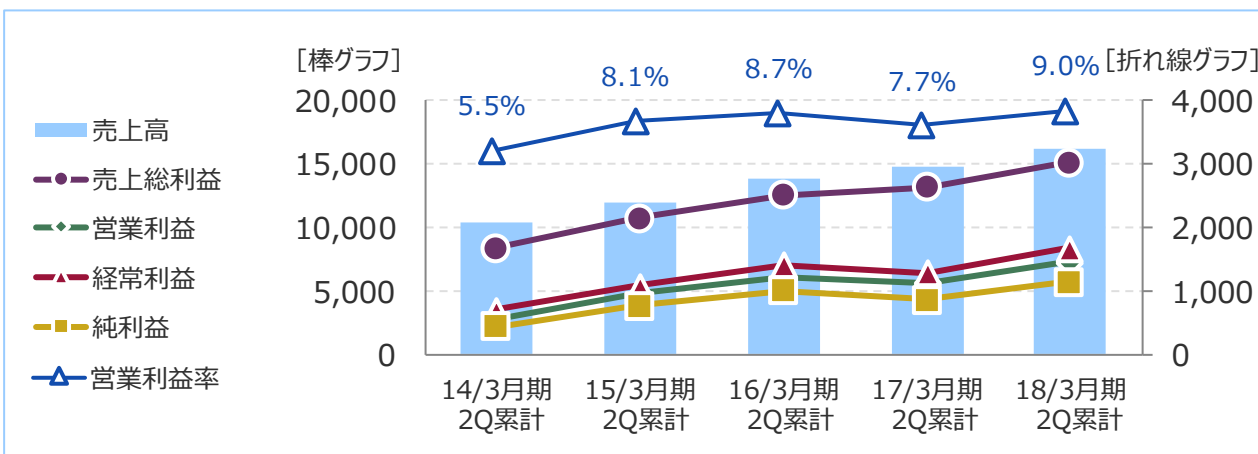


## ② 第2四半期決算のポイント

[単位：百万円未満切捨]

- 売上高・営業利益・経常利益・純利益ともに、前年比で増加。（業績予想はクリア）
- 顧客状況に応じた、ポートフォリオマネジメントが奏功。（下期は組織変更を実施）
- 子会社「クレスコ・イー・ソリューション」「アイオス」の業績が改善傾向。（構造改革を継続実施中）
- グループ連携（特に営業面）強化による受注機会の拡大と、開発体制強化。（継続）
- 不採算案件の最小化を目指した、リスクチェックの強化とプロジェクト品質の向上。（継続）

2 Q 累 計		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	前年 同期比	対上期 進捗率	2018年3月期 予想 <2017/5/9 発表>	前年 同期比
		売上高	13,819	14,740	16,253	110.3%	101.6%	16,000
売上総利益	2,511 (18.2%)	2,631 (17.8%)	3,025 (18.6%)	115.0%				
営業利益	1,208 (8.7%)	1,131 (7.7%)	1,469 (9.0%)	129.9%	108.0%	1,360 (8.5%)	120.2%	
経常利益	1,410 (10.2%)	1,284 (8.7%)	1,687 (10.4%)	131.4%	114.0%	1,480 (9.3%)	115.2%	
純利益	1,017 (7.4%)	867 (5.9%)	1,157 (7.1%)	133.4%	115.8%	1,000 (6.3%)	115.2%	
EPS 円/株	91.54	76.64	103.44			88.18		



通期		
対通期 進捗率	2018年3月期 予想 <2017/5/9 発表>	前年 同期比
49.0%	33,200	107.5%
49.0%	3,000 (9.0%)	110.8%
51.4%	3,280 (9.9%)	106.6%
51.9%	2,230 (6.7%)	109.2%
	207.63	

[注] ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。  
 [注] 「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。



[単位：百万円未満切捨]

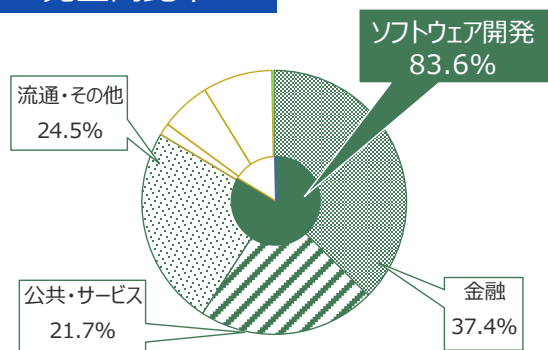
## ■ ソフトウェア開発

- 金融は、大型案件が一巡、ベンダー経由の受注が減少。
- ベンダー経由以外（特に流通）の受注が業績を牽引。
- 子会社のERP関連事業、ネットワーク関連事業が順調。

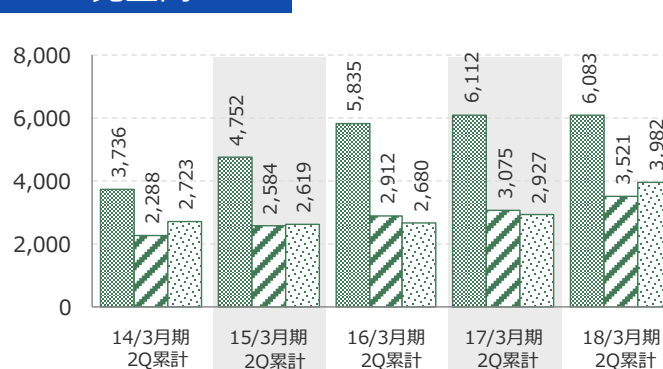
			2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	前年同期比
2 Q 累 計	ソ フ ト ウ ェ ア	売上高				
		金融	5,835	6,112	<b>6,083</b>	<b>99.5%</b>
		公共・サービス	2,912	3,075	<b>3,521</b>	<b>114.5%</b>
	流通・その他	2,680	2,927	<b>3,982</b>	<b>136.0%</b>	
	セグメント利益	1,387 (12.1%)	1,328 (11.0%)	<b>1,648 (12.1%)</b>	<b>124.1%</b>	

【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。

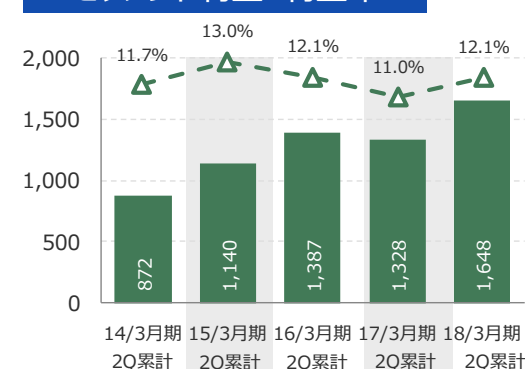
売上高比率



売上高



セグメント利益・利益率



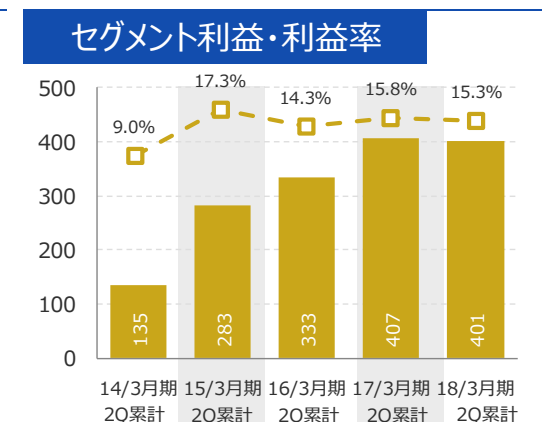
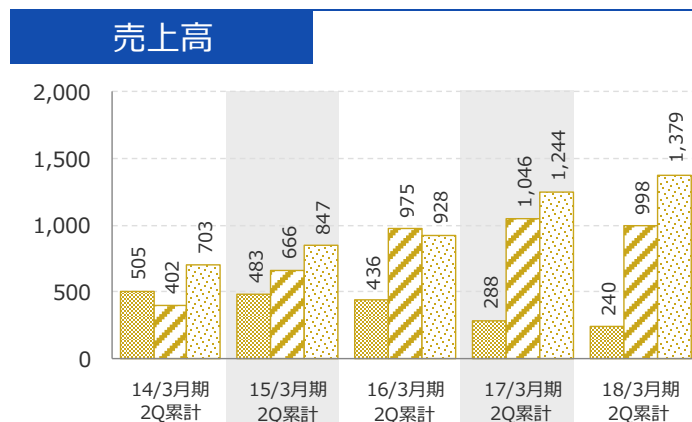
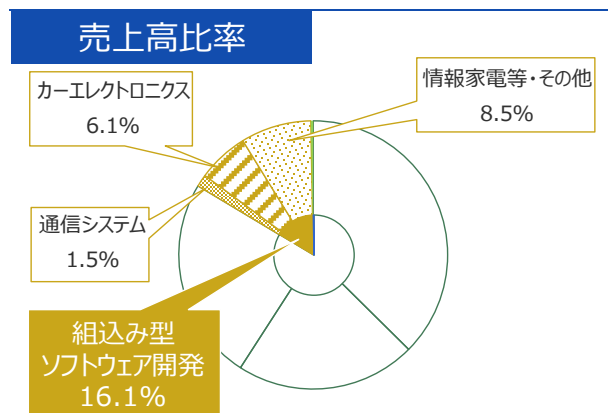
[単位：百万円未満切捨]

## ■ 組み型ソフトウェア開発

- 「情報家電等・その他」のデジタル情報家電（テレビ、カメラ等）が増、子会社の制御系OS開発・コントローラ開発が堅調に推移。
- カーエレクトロニクスは、一部メーカーの受注が端境期。

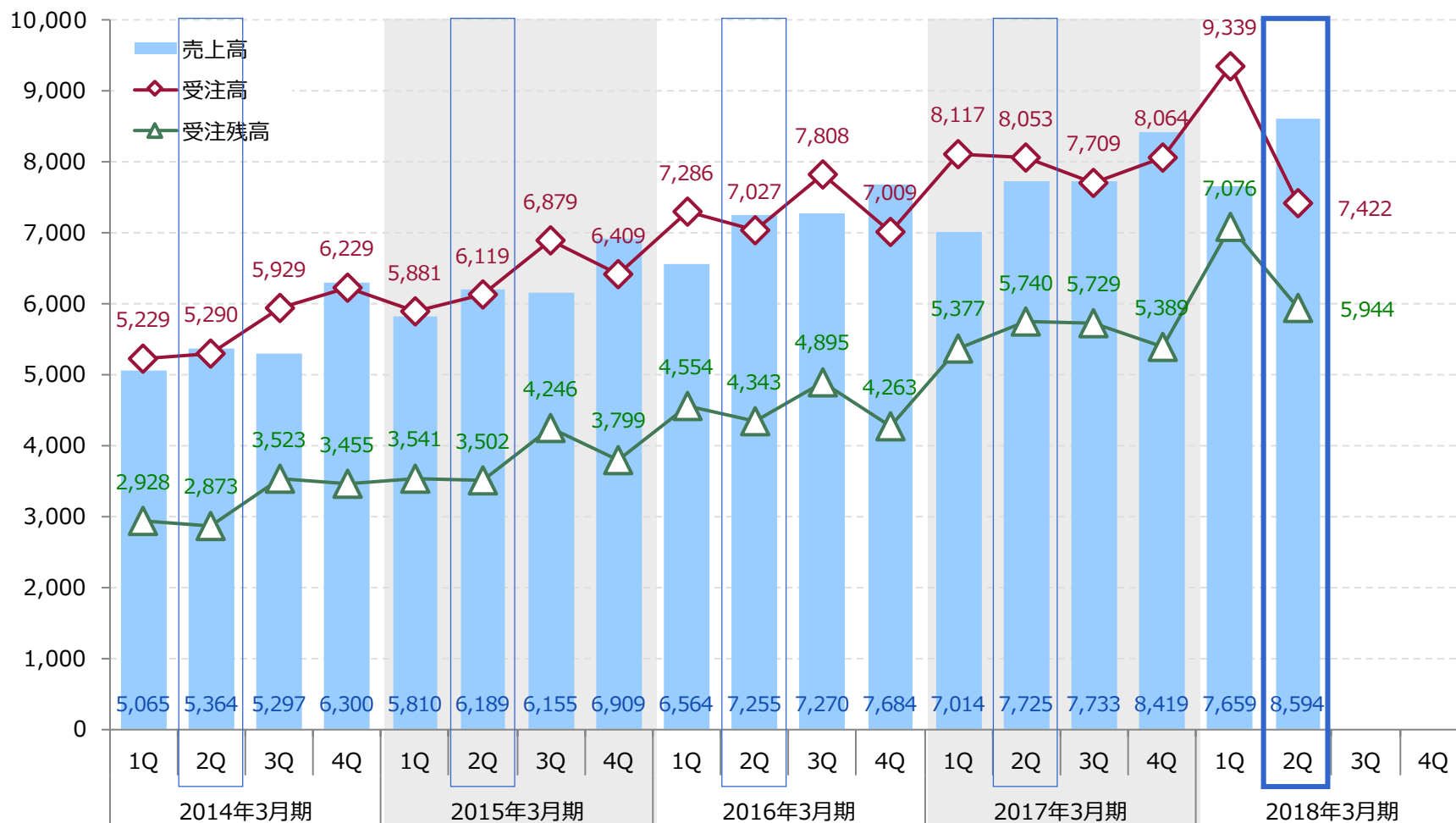
		2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	
2 Q 累 計	組 込 み 売 上 高	通信システム	436	288	<b>240</b>	<b>83.6%</b>
		カーエレクトロニクス	975	1,046	<b>998</b>	<b>95.5%</b>
		情報家電等・その他	928	1,244	<b>1,379</b>	<b>110.9%</b>
			2,340	2,578	<b>2,619</b>	<b>101.6%</b>
	セグメント利益	333 (14.3%)	407 (15.8%)	<b>401 (15.3%)</b>	<b>98.5%</b>	

【注】（）内の数字は各々の利益率を表します。



- 業種・業態で濃淡があるものの、デジタル変革を背景に、顧客の引合いは活発。
- 受注高・受注残とも、概ね順調に推移。（主要子会社の受注も良好）
- 受注高 : 前年2Q累計比 103.6%  
受注残高 : 前年比 103.6%

[単位：百万円未満切捨]





### ③ 今後の見通し

[単位：百万円未満切捨]

- 第2四半期の目標はクリアしたが、通期については第4四半期の不透明感が拭い切れない、と判断。
- 当初(2017年5月9日)発表した業績予想を、**据置き**とする。

	2017年3月期				2018年3月期	
	予想 <2016/5/9 発表>	前年 同期比	実績	前年 同期比	予想 <2017/5/9 発表>	前年 同期比
通期 売上高	31,100	108.1%	30,893	107.4%	<b>33,200</b>	<b>107.5%</b>
売上総利益			5,745 (18.6%)	109.8%		
営業利益	2,750 (8.8%)	110.7%	2,707 (8.8%)	109.0%	<b>3,000 (9.0%)</b>	<b>110.8%</b>
経常利益	3,000 (9.6%)	105.0%	3,078 (10.0%)	107.7%	<b>3,280 (9.9%)</b>	<b>106.6%</b>
純利益	2,000 (6.4%)	117.3%	2,042 (6.6%)	119.8%	<b>2,230 (6.7%)</b>	<b>109.2%</b>
EPS 円/株	176.36		180.28		<b>207.63</b>	

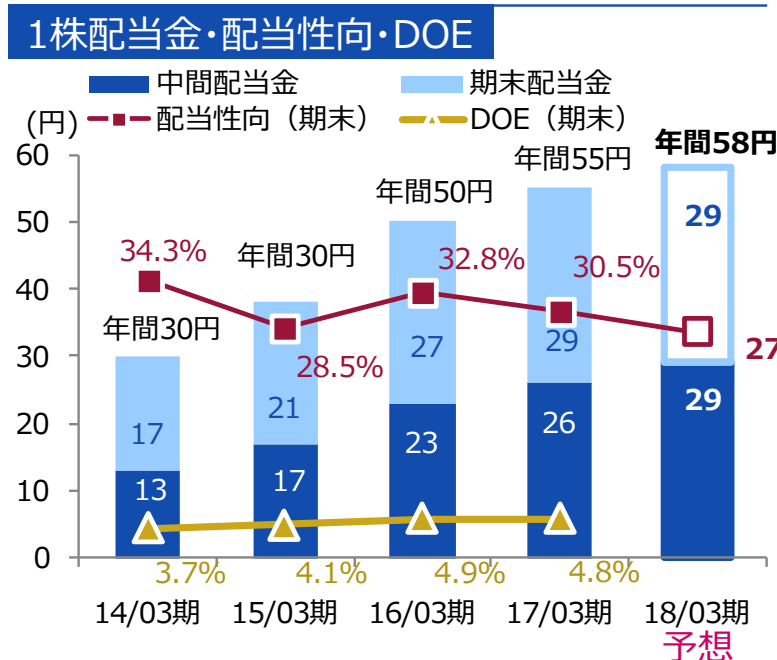
【注】 ( ) 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

■ 当初(5月9日)に発表した、配当予想は据え置き。

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期		
	実績	実績	実績	予想 <2017/5/9 発表>	増減
2Q期末	23円	26円	29円	<b>29円</b>	<b>3円</b>
期末	27円	29円	-	<b>29円</b>	<b>0円</b>
年間	50円	55円	29円	<b>58円</b>	<b>3円</b>
配当性向	32.8%	30.5%	-	<b>27.9%</b>	<b>-2.6%</b>
配当利回り	2.8%	2.0%	-		
DOE	4.9%	4.8%	-		
配当金の総額	563百万円	623百万円	-		



**株主還元方針**

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけしており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、**当社(単体)**の経常利益を基に、特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目的に継続的に実現することを目指してまいります。

平成29年10月30日

各位



会社名 株式会社クレスコ  
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸  
 (コード番号：4674 東証一部)

問合せ先 取締役 常務執行役員 菅原 千尋  
 グループ事業推進本部長  
 (TEL 03-5769-8011)

## 関西地区における子会社の組織再編に関するお知らせ

当社は、平成29年10月30日開催の取締役会において、株式会社アイオス（代表取締役：宮本大地、本社：東京都港区、以下、アイオス）の関西営業所（大阪府大阪市淀川区）をメディア・マジック株式会社（代表取締役：中須直子、本社：大阪府大阪市中央区、以下、メディア・マジック）に統合することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 1. 統合の理由

これまで、クレスコグループでは、関西地区の事業については、連結子会社であるアイオスの関西営業所とメディア・マジックの2拠点を中心に展開してまいりましたが、事業の一元化を通して、開発効率化を高めるとともに、戦力の集中を図ることで、より付加価値の高いサービスをお客様に提供することが可能になると判断し、統合することといたしました。両社の強みを融合するとともに、重複機能も統合し、経営の効率化を促進いたします。クレスコグループは今後も経営資源の「選択と集中」を図り、更なる成長を目指してまいります。

### 2. 統合の要旨

- (1) 統合実施日：平成30年4月2日（月）
- (2) 営業開始日：平成30年4月2日（月）

ファイル名:20171110\_持分法適用関連会社の上場承認に関するお知らせ\_ver3更新日時:2017/11/10 9:22:00 印刷日時:17/11/10 9:22

平成29年11月10日



各 位

会 社 名 株式会社クレスコ  
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 根元 浩幸  
 (コード番号:4674東証一部)  
 問合せ先 取締役 常務執行役員 菅原 千尋  
 グループ事業推進本部長  
 (TEL 03-5769-8011)

### 持分法適用関連会社の上場承認に関するお知らせ

平成29年11月9日付で、当社の持分法適用関連会社である株式会社エル・ティー・エスの東京証券取引所マザーズ市場（新興企業向け市場）への上場が承認されましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

#### 1. 持分法適用関連会社の概要

(1)	名 称	株式会社エル・ティー・エス
(2)	所 在 地	東京都新宿区新宿2丁目8番6号 KDX新宿286ビル3階
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 樺島 弘明 (かばしま ひろあき)
(4)	事 業 内 容	企業変革の推進と定着に関するコンサルティング
(5)	資 本 金	306,880,000円



【ご参考】

# 決算説明の補足

【ご参考】

## ■情報サービス産業

- 企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みが、ソフトウェア開発、システム開発の更なる需要を喚起。
- 競争力に直結するイノベーションを志向する企業の戦略的なIT投資の勢いを、デジタル革命の潮流が後押し。
- 選別受注や単価見直し、不採算案件の削減といった収益性向上に資する取組みと働き方改革・休み方改革の推進を如何にバランスし、持続的な成長と企業価値向上に繋げるかの、大きなパラダイム転換期。

## ■ クレスコGroup






- コア技術(アプリケーション開発技術、ITインフラ構築技術、組込み技術)に先端技術(AI、ロボティクス、IoT等)を加えたクレスコグループの幅広い事業領域が優位性を発揮。
- 受注量の維持・拡大および市場の変化に即したサービスの開発、先端技術の取込みに、的確かつスピーディに対応すべく、**開発体制の強化**(人材の確保、育成等)、**品質管理**、**グループ間連携**に注力。
- **先端技術**(特に、AI、ロボティクス、IoT)の**研究**、新規事業の創出、各種サービス・ソリューションの拡販等に努める。



クレスコはパートナーです。

※ 記載している商品名は、各社の商標または登録商標です。

CRESCO	●	オリジナルサービス	業種	金融	公共・サービス	流通・その他
			ベンダー経由の案件が引続き、減少傾向。エンドユーザーは、アプリケーションおよびシステム基盤の開発が堅調に推移。	イノベーションによる競争優位性の確保を目的とした需要が継続。特に、旅行・人材関連の開発ボリュームが増加。	先端技術（AIやIoTなど）の利活用に対する関心の高まりが受注を後押し。主要子会社の貢献も大きい。	
			クラウド	Creage [クラウドソリューション]	クラウド	Intelligent Folder [オンラインストレージサービス]
	人工知能	Minervae AI関連サービス	ロボティクス	ロボティクス関連サービス	ビッグデータ	データ分析サービス
	4月に、サービスブランド「Minervae」を立上げ。9月には、画像・自然言語によるチャットボットを簡単に作成できる「Minervae ViBOT」をリリース。	法人様向け多国語対応のファイルサーバーサービス。販売チャネル拡大のため、代理店の支援を強化。	Pepper®やSota™などのロボットを利用したソリューション・サービス（アプリケーションの設計・開発、運用サポート）を提供。	IoTの利活用に必要なセンサーやビーコン、マイクロサーバー等を使ったアプリケーション開発から運用までサポート。	データ分析サービス	勘や経験ではなく、事実に基づいた意思決定が求められる中で、マーケティング活動をデータ分析の観点から支援。来場者の動線分析等を実証。
	●	分野	通信システム	カーエレクトロニクス	その他	
デジタル通信端末(スマートフォン)の開発は、ピークアウトのため逡減。(想定どおり)	車載系システム開発(デジタルメーター等)は、一部メーカーの受注が端境期。	デジタル情報家電(カメラ, ビデオ, テレビ)向けの開発における増員要請が継続。				

			セグメント		
			ソフト	組込み	製品
	クレスコ・イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 大型プロジェクトの順調な進捗。ビジネスパートナー（協力会社）の確保も順調。</li> <li>◆ 中堅中小企業のプライム案件が増加、増収増益に寄与。</li> <li>◆ オリジナル製品の販売が復調傾向に。下期に向け、順調な積上がり。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>プライムビジネスの推進。他社との協業強化。若手社員の重点教育。</li> </ul>	●		
	クレスコワイヤレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 代理店や半導体メーカーとの協業体制が実現。小口案件の新規引合が増加傾向。</li> <li>◆ Beaconの量産案件獲得に向けた営業活動を継続し、下期以降の受注確度上昇。</li> <li>◆ 仕様確定の遅れ等が発生し、第2四半期に見込んだ案件が、第3四半期に期ズレ。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>受託開発案件の獲得。量産案件の立上げおよび継続。経験者採用。</li> </ul>		●	●
	アイオス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 金融系のホストおよび分散基盤案件の受注が引続き、順調に推移。</li> <li>◆ グループ連携を含め、営業を強化。小規模案件ながら新規顧客の受注が順調。</li> <li>◆ プロジェクトにおける稼働管理の徹底が奏功し、収益性改善。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>新たなビジネス領域の拡大。知識・技能の継承。受注形態の見直し。</li> </ul> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">10月2日付で「(株)アプリケーションズ」を完全子会社化</p>	●		
	クレスコ九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 既存顧客のプロジェクトで、計画通りに増員が進まず、売上および利益に影響。</li> <li>◆ 請負案件の受注遅延と組込みビジネス立上げによる待機コストが発生。</li> <li>◆ ビジネスパートナーの獲得に苦戦。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>ニアショアの取引先拡大。地場企業からの受注拡大。人材の獲得と教育。</li> </ul>	●		
	クレスコ北陸	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 主要顧客の受注が改善し、増収増益に寄与。</li> <li>◆ 自社製品（飲食店向けセルフオーダーシステム）の販売開始（ラーメン店向け）により、売上増。</li> <li>◆ 自社製品（回転寿司皿勘定システムToppar）を九州地区チェーンへ展開し、売上増。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>セルフオーダーシステム拡販。リモート分散開発の実施。ホワイトスペース開拓。</li> </ul>	●		

セグメント

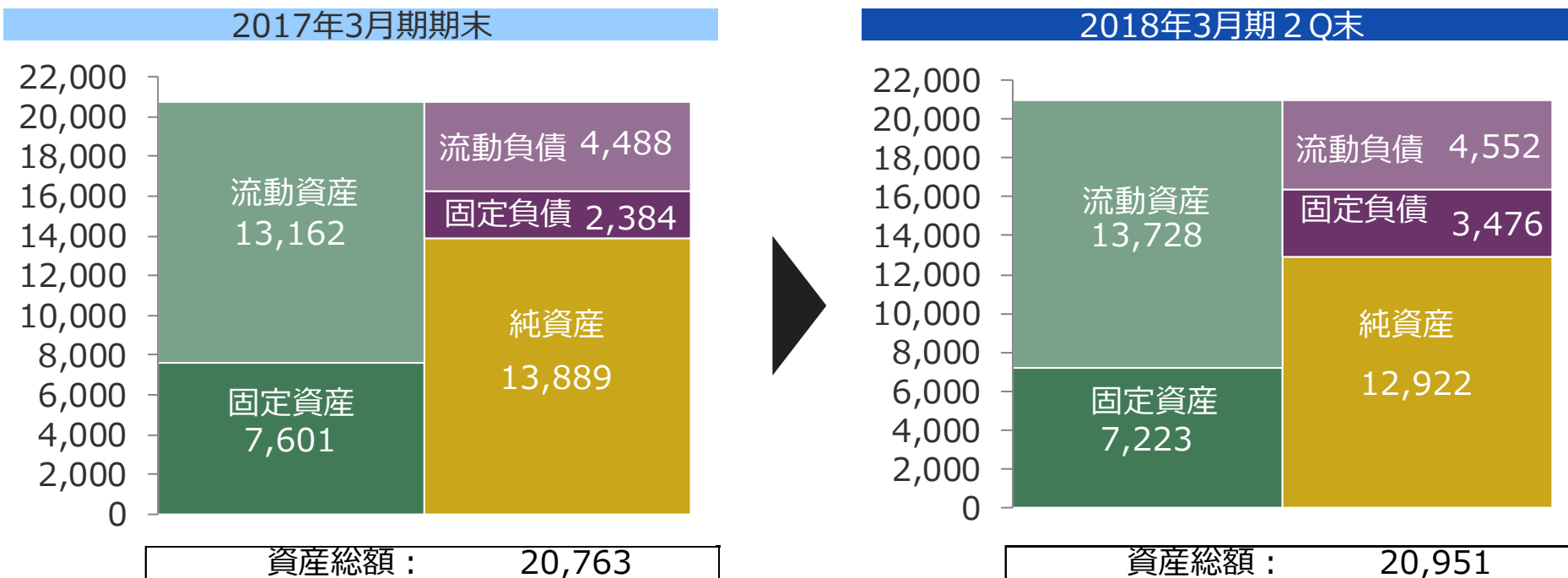
ソフト	組込み	製品
-----	-----	----

	<p>科礼斯軟件 (上海)</p>	<div style="border: 2px solid #e91e63; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>9月25日付で清算終了</p> </div>
	<p>シーフリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 電力システムの大規模プロジェクトは、ピークアウト。</li> <li>◆ 小型案件および新規分野の案件受注が業績に寄与。</li> <li>◆ OSやコントローラー等の開発は、安定化傾向が継続。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>配電システムの新規受注。建設関連の制御系システムへの進出。人材育成。</li> </ul>
	<p>クリエイティブ ジャパン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 大規模一括SI案件（ハードウェア含む）の継続。</li> <li>◆ 開発要員（ビジネスパートナー）の積極的な活用、スポット案件の獲得により、増収増益。</li> <li>◆ 不採算プロジェクトは発生せず、収益性が向上。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>セキュリティ部門の拡大。パッケージインテグレーションの強化。特長の強化。</li> </ul>
	<p>メディア・マジック</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ プロジェクトのリリース遅延、案件開始の遅延が発生するも前年比では増収増益。</li> <li>◆ Webデザイン案件の需要、引合いが増加傾向。要員不足が一気にクローズアップ。</li> <li>◆ ビジネスパートナー（協力会社）の発注単価が高騰傾向。収益の圧迫要因に。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>Web系（デザイナー含む）要員の採用。協力会社との連携強化。</li> </ul>
	<p>エヌシステム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 予定プロジェクトの期ズレ発生および一部のプロジェクト縮小が発生。</li> <li>◆ ビジネスパートナー投入数の圧縮や請負プロジェクトの完了により利益確保。</li> <li>◆ 運輸関連および旅行、バス運行システムに関する新規顧客の獲得。</li> <li>◆ <b>【課題】</b>人材のスキルアップ。要員の確保。開発ベンダーとの協業。新プロダクトの考究。</li> </ul>

	●	
	●	
●		
●		
●		

[単位：百万円未満切捨]

■ 資産総額は、前連結会計年度末に比べて1億88万円増加し、209億51百万円



- 流動資産 ↓ 前連結会計年度末比 4億68百万円減少

増加：有価証券…8億76百万円、受取手形および売掛金…77百万円  
減少：現金および預金…3億97百万円
- 固定資産 ↓ 前連結会計年度末比 3億77百万円減少

減少：投資有価証券…4億30百万円
- 流動負債 ↑ 前連結会計年度末比 63百万円減少

増加：1年以内返済予定の長期借入金…2億59百万円  
減少：未払法人税等…80百万円、受注損失引当金…59百万円、買掛金…56百万円
- 固定負債 ↑ 前連結会計年度末比 10億91百万円増加

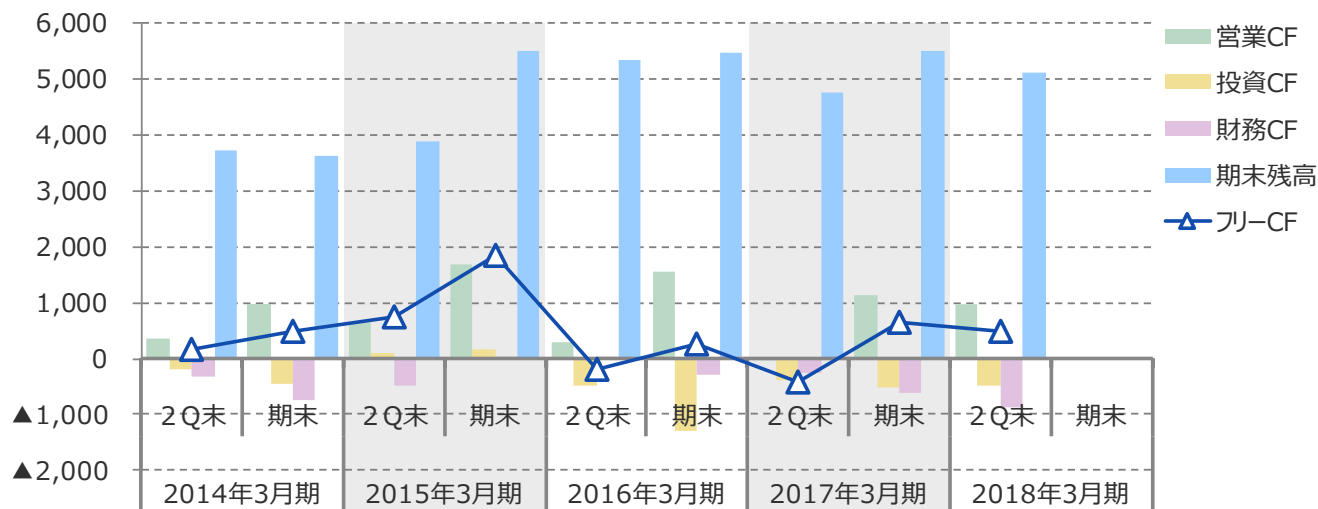
増加：長期借入金…10億20百万円、退職給付に係る負債…76百万円
- 純資産合計 ↓ 前連結会計年度末比 9億66百万円減少

増加：利益剰余金…8億28百万円、自己株式…17億96百万円

[単位：百万円未満切捨]

■ 現金および現金同等物は、前連結会計年度末に比べて3億89百万円減少し、51億14百万円

		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
		2Q末	期末	2Q末	期末	2Q末	期末
キャッシュ・フロー	営業活動	277	1,543	▲ 40	1,144	960	-
	投資活動	▲ 469	▲ 1,287	▲ 381	▲ 505	▲ 482	-
	財務活動	20	▲ 286	▲ 273	▲ 604	▲ 866	-
フリー・キャッシュ・フロー		▲ 192	256	▲ 422	638	477	-
キャッシュ・フロー増減		▲ 170	▲ 34	▲ 698	33	▲ 389	-
現金および現金同等物の期末残高		5,333	5,470	4,772	5,503	5,114	-



■ 営業CF 9億60百万円の収入

法人税等の支払額 …	5億35百万円
売上債権の増加額 …	78百万円
受注損失引当金の減少額 …	59百万円
税金等調整前当期純利益 …	17億10百万円

■ 投資CF 4億82百万円の支出

投資有価証券の売却による収入 …	12億28百万円
有価証券の売却による収入 …	6億86百万円
投資有価証券の償還による収入 …	3億23百万円
投資有価証券の取得による支出 …	13億92百万円
有価証券の取得による支出 …	11億63百万円
有形固定資産の取得による支出 …	71百万円

■ 財務CF 8億66百万円の支出

長期借入金による収入 …	13億円
自己株式の取得による支出 …	18億18百万円
配当金の支払い額 …	3億28百万円



## ■ 情報サービス産業の動向

- IT投資のトレンドは変わらず、引続き拡大傾向になる。
- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、AIやIoTといった先端技術を取込んだシステム開発需要が急速に拡大する。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、第3のプラットフォーム分野(クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術)の需要は、AI、IoT、ロボティクスといった先端技術のトレンドと相まって、一層加速する。
- AI、IoT、ビッグデータといったデータを経営資源とするための管理基盤の構築、持続可能なIT基盤の構築や開発プロセスを確立するAPI(Application Programming Interface)エコノミーの活用、巧妙化するサイバー攻撃に対応するセキュリティ体制の確立など、ビジネス基盤の高度化を指向するトレンドの中、企業の「デジタル変革」に対する取組みが、一層加速する。

- 金融、流通・小売り、サービス(医療, 介護含む)、土木・建築、情報家電、カーエレクトロニクス等の業種は、市場にイノベーションをもたらす分野になる。  
主力のソフトウェア開発事業の他、先端技術関連事業の当面の成長を見込む。
- 様々な産業間のエコシステム連携による第3のプラットフォーム(クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術)の利活用や「働き方改革」に対する意識の高まり、IoTの実装フェーズへの移行などは、新たなビジネスチャンスになる。
- クレスコグループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有しており、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業において、技術および品質の面から更なる強化を図る。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実させていく。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開していく。



【ご参考】

# 2018年3月期の取組み

# 期待を超えて、次のステージへ

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

## CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

1. 人材の獲得（新卒採用，経験者採用）
2. 開発体制の強化（ニアショアおよびオフショア開発体制，ビジネスパートナーとの協業体制）
3. グループ体制の見直し および 連携強化による資本効率の向上
4. 顧客に対する提案品質の向上 および リレーションシップの強化
5. 鉄板品質の提供 および 徹底的な生産性の追求
6. 未来技術の追求 および サービス化ビジネスの推進（新分野へのイノベーション）
7. 営業拠点の拡大による新規顧客の開拓 および ビジネス領域の拡大
8. スペシャリスト人材の育成 および スキル強化（人間力，仕事力，技術力）
9. コーポレートガバナンス および コンプライアンスの強化
10. 働き方改革 および ストレスケアの推進

## 5カ年ビジョン「CRESCO Ambition 2020」と対処すべき課題を踏まえて

1

## 組織

- 旅行業界特化型組織の設置
- 中京地区ビジネス拡大に向けた、営業拠点の設置
- 現地調査と協業企業の開拓に向けた、ベトナム駐在員事務所の設置
- 人材交流によるグループシナジーの強化

2

## 事業

- プラットフォーム関連事業の活性化推進
- 特命営業担当による、顧客リレーションシップの強化
- オフショア推進による、開発体制の強化
- 新規ビジネス創出に向けた、インキュベーション機能の強化

3

## その他

- M&Aの推進
- スペシャリスト制度の導入
- 働き方改革の実践と、働きやすい職場作り
- コーポレートガバナンス体制の見直し

# 会社概要

【ご参考】

	2014年3月期				2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション 【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
ワイヤステクノロジー 【※2】	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ・コミュニケーションズ 【※1】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ・アイディー 【※2】	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコワイヤレス 【※2】	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
アイオス 【※8】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
科礼斯軟件（上海） 【※7】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/
シーサー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
エス・アイ・サービス 【※3】【※5】	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/
メディア・マジック 【※4】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●		
エヌシステム 【※6】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●		
<b>子会社総数</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>10</b>		

【※1】 2014年1月末付にて、クレスコグループとの資本関係を解消（全株式譲渡）

【※2】 2015年4月1日付で「ワイヤステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

【※3】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※4】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※5】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

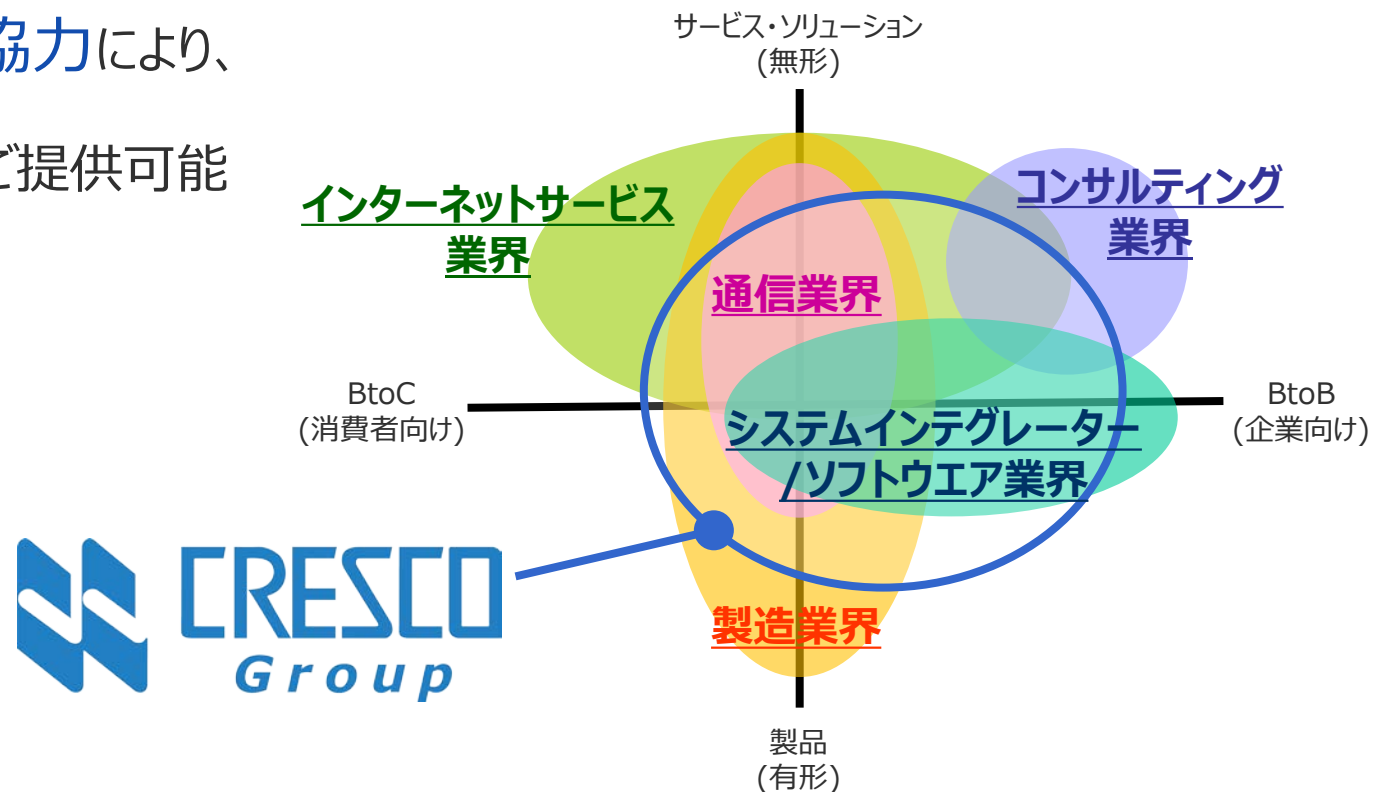
【※6】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化

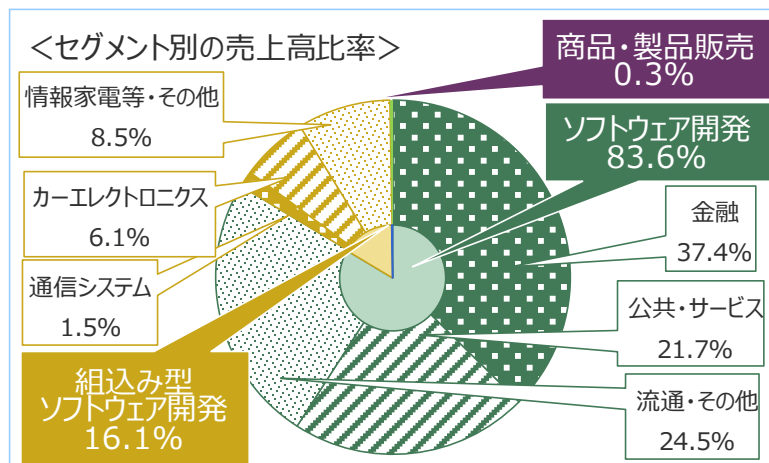
【※7】 2017年9月25日付で清算終了

【※8】 2017年10月2日付で「(株)アプリケーションズ」を子会社化（当社の孫会社）



- 主な事業は、  
お客様のご要望に合わせた**オーダーメイド**によるシステム開発(受託開発)
- BtoBを軸足としながら、  
**ITビジネス領域のほぼすべてをカバー**
- メーカー、ユーザー企業を親会社としない**独立系**
- **他業界との提携・協力**により、  
お客様のニーズに沿う  
幅広いソリューションをご提供可能

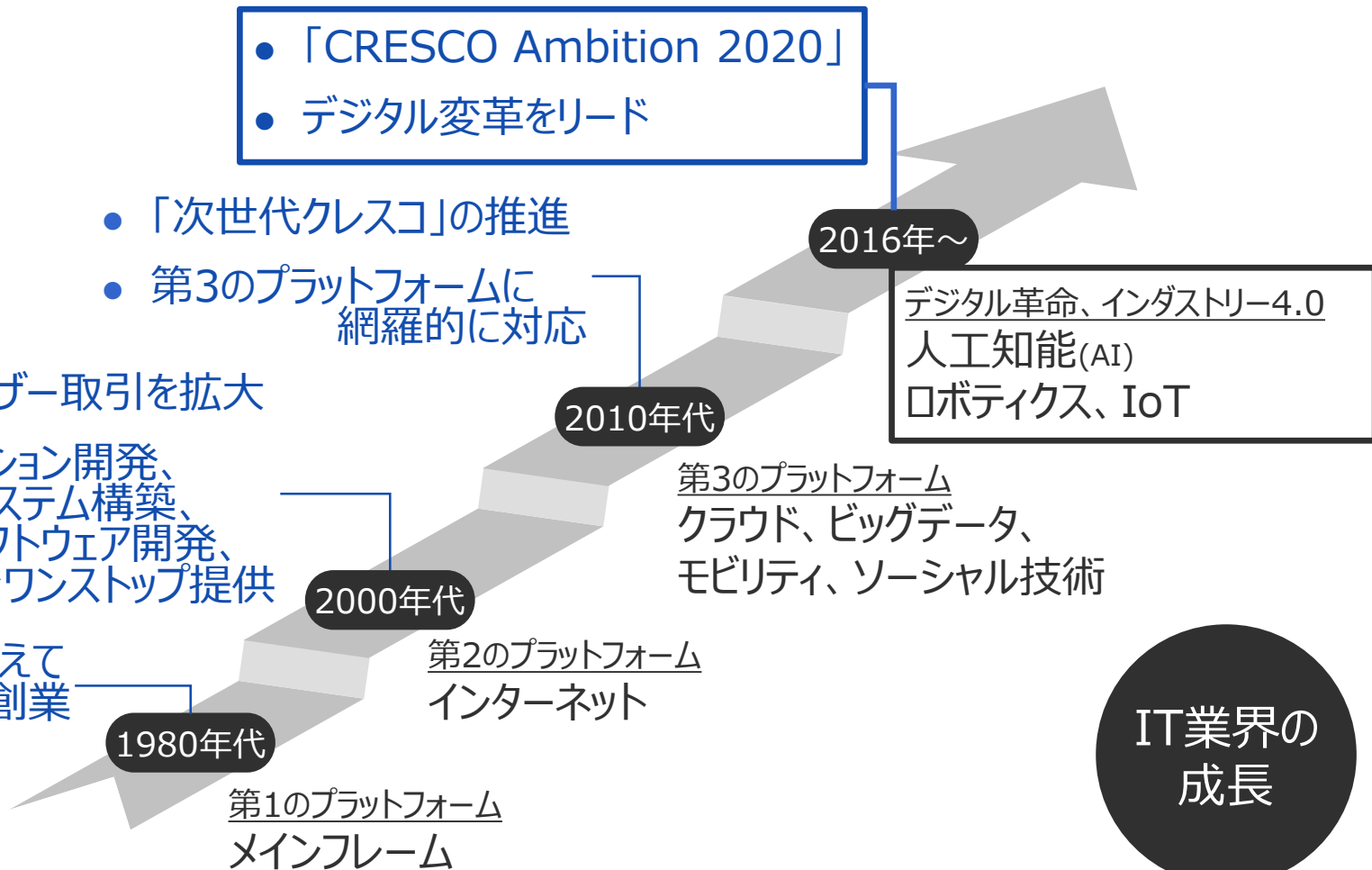




セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスアプリケーション開発</li> <li>・IT基盤システム構築</li> <li>・オリジナル製品・サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融 (銀行、保険、カード、証券 etc.)</li> <li>・公共・サービス (航空、鉄道、電力、放送、医療、旅行、人材ビジネス etc.)</li> <li>・流通・その他 (運輸、小売 etc.)</li> </ul>
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組込型ソフトウェア開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信システム (携帯情報端末 etc.)</li> <li>・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.)</li> <li>・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)</li> </ul>
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売</li> </ul>	

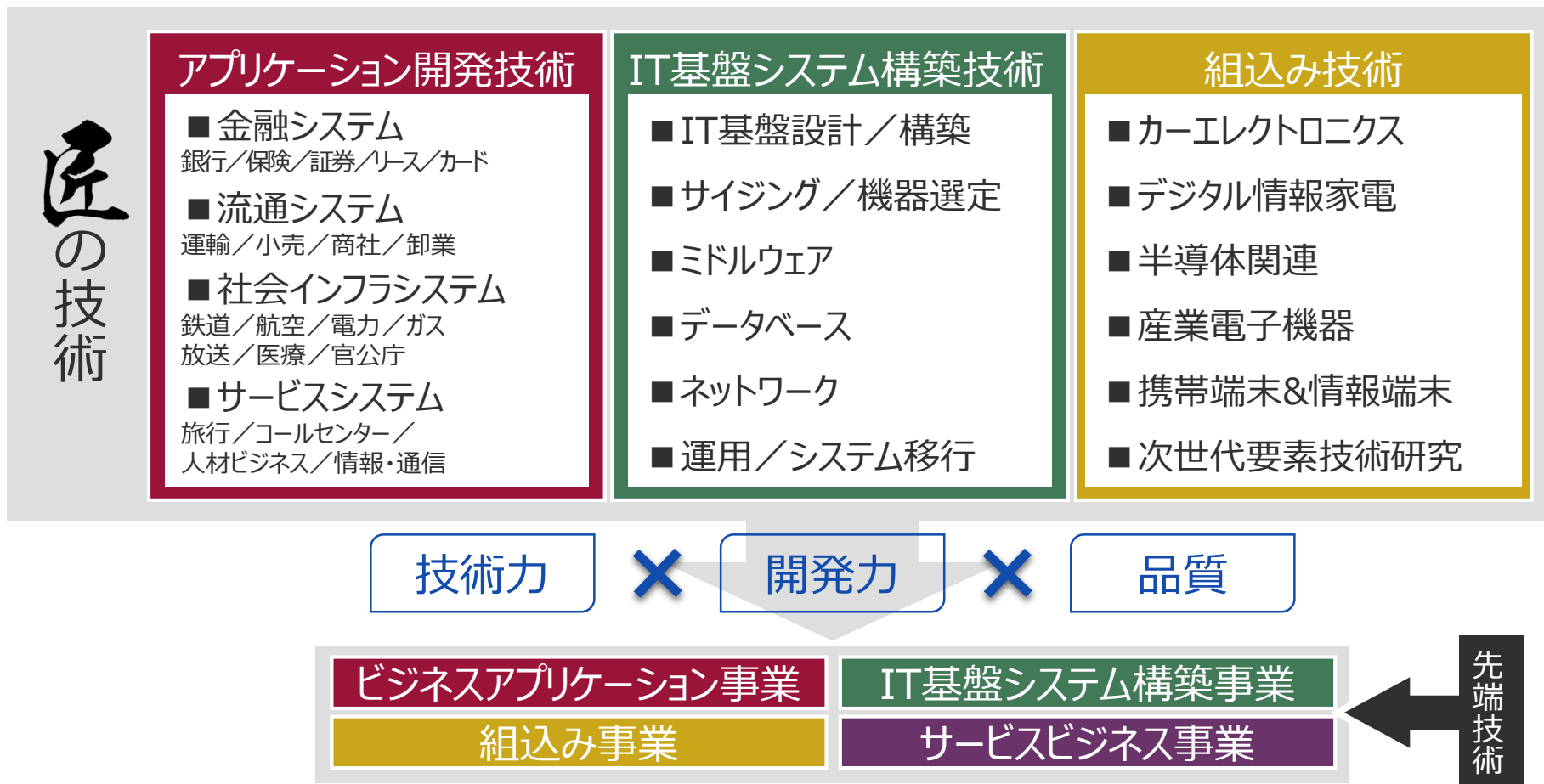
- ITプラットフォームの変化にあわせてサービスのご提供ができるよう、「技術研究所」が**数年先を見据えて、先端技術に取り組んでいます。**

## クレスコの あゆみ

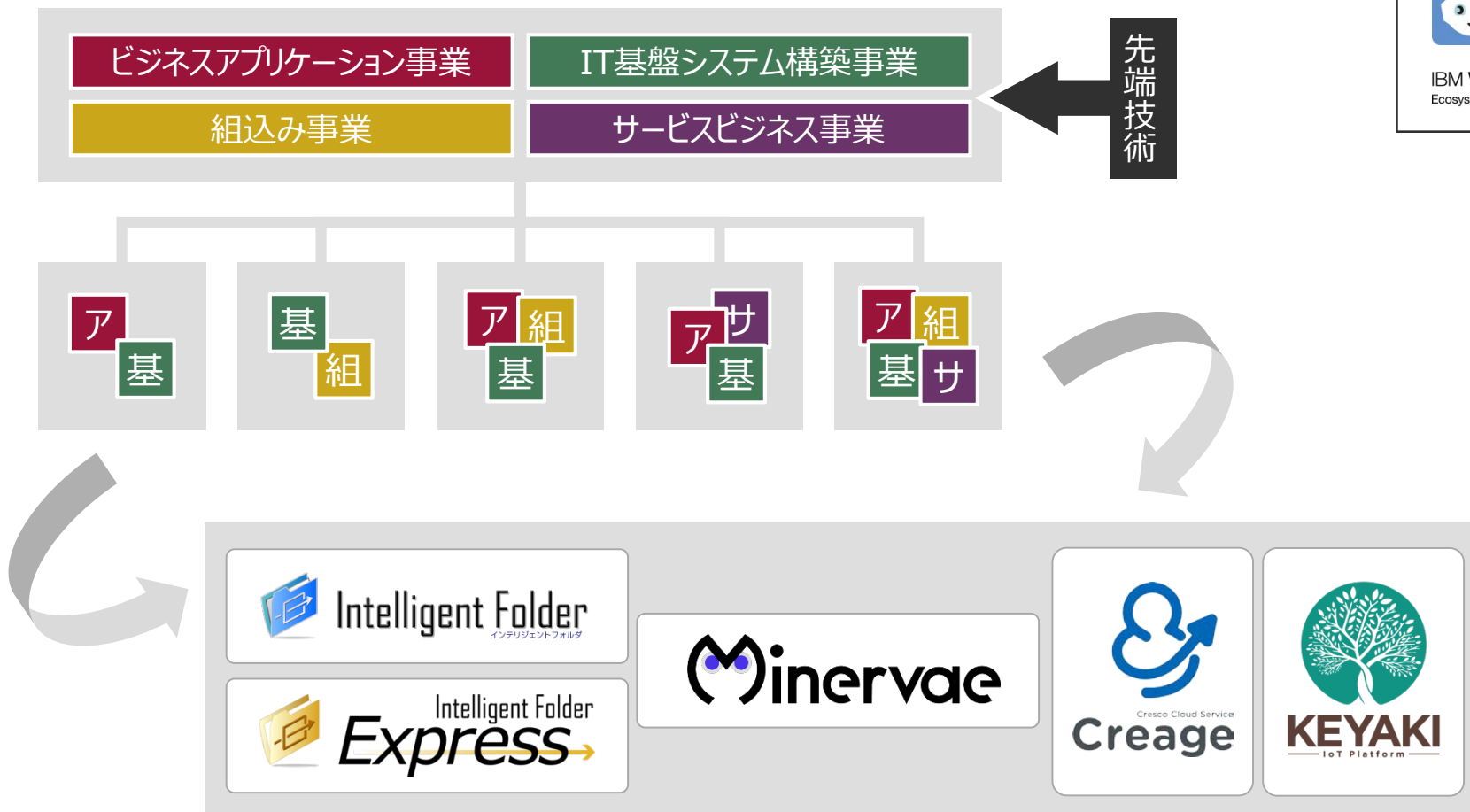
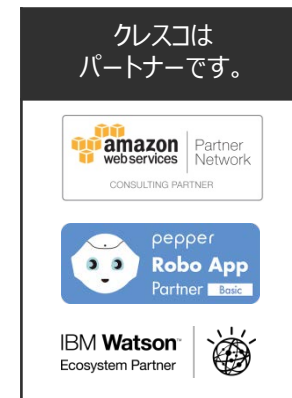


## IT業界の 成長

- 経験に支えられた3つのコア技術が4つの事業領域で、お客様のご要望に合わせた**オーダーメイド**によるシステム開発(受託開発)



- 4つの事業のコラボレーションにより、**新たなサービスを創造**
- **クレスコGroup** 連携により、**ワンストップでご提供**



※ 一部を除き、商品名は当社の商標または登録商標です。  
 ※「Watson」「Pepper」「Sota」「Amazon web service」は、各社の商標または登録商標です。

[2017年6月19日時点]

## 1. 特定の取引先への依存度について

当社企業グループは、連結売上高のうち日本アイ・ビー・エム(株)への売上高の割合が高く、その状況は次のとおりです。

相手先	2016年3月期末		2017年3月期末	
	売上高 (千円)	割合	売上高 (千円)	割合
日本アイ・ビー・エム(株)	5,571,197	19.4%	5,196,838	16.8%
連結売上高合計	28,775,033	100.0%	30,893,555	100.0%

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

なお、当社と日本アイ・ビー・エム(株)の間には取引基本契約が締結されており、取引関係については取引開始以来永年にわたり安定したものとなっております。ただ、日本アイ・ビー・エム(株)の事業方針や外注政策に関する変化が当社企業グループの業績に与える影響は大きく、常に注視するとともに適切な対策を打ってまいります。

## 2. 見積り違い及び納期遅延等の発生

当社企業グループは、プロジェクトの作業工程等に基づき必要工数やコストを予測し、見積りを行っておりますが、すべてのプロジェクトに対して正確に見積ることは困難であり、仕様変更や追加作業に起因する作業工数の増大により実績が見積りを超えた場合、低採算または採算割れとなる可能性があります。

また、顧客と予め定めた期日までに作業を完了・納品できなかった場合には損害遅延金、最終的に作業完了・納品ができなかった場合には損害賠償が発生し、当社企業グループの経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。

## 3. 情報セキュリティについて

当社企業グループは、業務遂行上、顧客が有する様々な機密情報を取り扱う場合があり、慎重な対応と厳格な情報管理の徹底が求められております。これに対し当社はコンプライアンス委員会を設置し、各種ポリシーを定め、関連する規程類を整備し、プライバシーマークを取得するなど万全の対策を取っております。また、クレスココンプライアンス経営行動基準を定め、グループ各社に展開しております。

さらに具体的な施策として従業員及び協力会社には機密保持に関する誓約書を取り交わした上で適切な研修やセキュリティチェックを継続的に行い、情報管理への意識を高め内部からの情報漏洩等を防いでおります。

しかしながら、これらの施策にもかかわらず個人情報や企業情報が万一漏洩した場合には、損害賠償責任、社会的信用の喪失等の発生により、当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

## 4. 人材の確保や育成

優れた人材の採用及び育成は当社企業グループの業績にとって重要課題の一つと認識しており、特に有能なシステムエンジニアは今後の事業拡大に不可欠であります。こういった人材を確保または育成できなかった場合には、当社企業グループの成長や事業展開、経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。

[2017年6月19日時点]

## 5. 協力会社（パートナー）との連携体制

当社企業グループは、事業運営に際して、協力会社等、さまざまなパートナーとの連携体制を構築しております。これらのパートナーを適宜、適正に確保できない、あるいは関係に変化が生じた場合、プロジェクトの立ち上げや遂行、サービスの提供に支障が発生する等により、経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。

## 6. 情報サービス産業における経営環境の変化等

情報サービス産業においては国が推進、要請するIT戦略や各企業の戦略的情報投資、IT利用者の拡大などその需要は景気の動向に大きく左右される傾向が強まっております。従いまして、日本経済が低迷、悪化する場合には顧客の情報化投資が減少する恐れがあり、当社企業グループの経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。

## 7. 長時間労働と過重労働

当社企業グループが提供するサービスやシステム開発の体制やプロセスの構造的な問題、属人性の高さから、長時間労働や過重労働が発生し、それらを起因とした健康問題や生産性の低下などにより、経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。

## 8. 訴訟に関するリスク

事業活動に関連して、納品物や製造物に関する責任、労務問題等に関し、訴訟を提起される可能性があり、その動向によっては損害賠償請求負担や信用の失墜等により、当社企業グループの経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。

## 9. 金融市場に係るリスク

当社企業グループが保有する有価証券等の評価は、国内・海外の経済情勢や株式市場など金融市場の動向に依存し、影響を受けるため、資金運用等、投資における重要なリスクと捉えています。当社企業グループでは、ヘッジを行うことにより、これらのリスクの最小化に取り組んでおりますが、市場の動向によっては、これらのリスクを完全に回避できない可能性があります。

当社の投資の大部分は、株式で構成されており、キャッシュ・フローの源泉の1つになっておりますが、昨今の株価変動は激しく、資産価値の下落が当社の業績及び財務状況に重大な影響を及ぼす可能性があります。

## 10. 金融商品に係るリスク

当社企業グループの保有する金融商品の価値が下落した場合、多額の損失が発生する可能性があります。なお、今後、金融商品の時価に関する会計上の取扱いに関する制度・基準等が見直された場合には、当社企業グループが保有する金融商品の時価に重大な影響を及ぼす可能性があります。

## 11. 価格競争に係るリスク

当社企業グループが事業を展開する市場は、激しい価格競争下にあり、コンサルティングサービスの導入やソリューション提案型のITビジネスへの取り組みなどにより、利益率の確保に努めておりますが、競争の更なる激化や価格低減要請の長期化による受注価格の変動が業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 12. 自然災害等の脅威に係るリスク

地震や風水害等の自然災害、火災等の事故、大規模なシステム障害、感染症等による事業所閉鎖、物理的なテロやネットワークテロなど、外的な脅威が顕在化した際には、事業所、オフィスの確保、要員の確保、安全の確保等の観点から事業の継続に支障が発生し、当社企業グループの経営成績等に影響が及ぶ可能性があります。



# 免責事項等

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR推進室  
Mail : [ir@cresco.co.jp](mailto:ir@cresco.co.jp)  
TEL : 03-5769-8058